

市の指定文化財③

永祿銘地蔵菩薩石仏

御領の集落の中に西福寺さいふくじがあります。この西福寺の南隣に小さな祠ほらがあり、この中に石造の地蔵菩薩立像りやうざうが安置されています。

高さ80チ、幅60チの花こう岩に、線刻せんこくの二重円光を背にした半肉彫りの地蔵菩薩が彫刻されています。

像の全体的なバランスは頭部が大きく、衣紋えもんも線刻とされており、やや稚拙なものとなっていますが、その体型からなんとなく親近感にあふれ、お地藏さんの優しさが伝わってきます。

像の左右の銘文によると、永祿元年えいりくげん（1558）8月頼尊たかえら越後助ごのすけという人物が、生前に自身の死後往生だいにじよふみよてん（逆修）のために、大乘妙典千部だいじよみふよてんを供養したとされています。そしてこれを記念してこの地蔵菩薩石仏を造立したというこ

とです。大乘妙典とは、一切経いっさいきやう（大藏経だいざんきやう）のことです。

頼尊越後助がどのような人物であったのかについては、この石仏以外には全く記録に見られないため、今となつてはその実像は不明ですが、戦国時代のまつただ中であつて、来生での安楽を願つた思いが伝わってきます。

この地蔵菩薩石仏にはお線香が絶えず、今でも地域の人びとから信仰されています。

（市史編纂委員 岡村喜史）



御領1丁目所在